



変わる時代の確かな視点

News Release

「第10回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」のご案内

株式会社ニッセイ基礎研究所では、9月下旬に全国に住む20～74歳2,557名に対して、2020年6月から継続的に実施している新型コロナ禍による行動変容や不安感、今後の見通しについての調査に加え、急速な円安の進行を背景に商品・サービスの値上げが相次ぐ中、物価高に対する意識や行動についても調査致しました。

コロナ禍3年目も後半となり、調査時点ではオミクロン株による感染拡大が収束へ向かっていたことも相まって、これまで見られてきた「買い物手段のデジタルシフト」や「公共交通機関利用のパーソナルシフト」、「外食需要の中食シフト」、「働き方のデジタルシフト」などの進行が鈍化し、「コロナ禍の平常」とも言える状況に落ち着いている様子がうかがえます。一方、長引くコロナ禍で、高齢家族の身体機能や認知機能の低下、生活維持の難しさなどへの不安は、当初と比べて強まっています。また、友人との距離が広がることや新たな出会いが減ることへの不安、少子化の更なる進行への懸念も強まった状況が続いています。

物価高については、消費者の約9割が実感しており、その理由には食料品や日用品、光熱費などの生活必需性の高い品目の値上がりや「実質値上げ」、報道の影響などがあがります。また、物価高を感じたことでとった行動は不要品の買い控えが約7割、ポイントなどの活用が約半数、低価格製品への乗り換えが約3割を占めます。

なお、ニッセイ基礎研究所では、今後も変化を追跡するために継続して調査を実施する予定です。

<調査結果のポイント>

- ✓ コロナ禍で見られてきた「買い物手段のデジタルシフト」「外食需要の中食シフト」「公共交通機関利用のパーソナルシフト」「働き方のデジタルシフト」は鈍化し、「コロナ禍の平常」とも言える状況に落ち着いている
- ✓ 高齢家族の身体機能低下への不安(43.7%)や生活維持の難しさへの不安(40.5%)は当初より増している
- ✓ 友人との距離が広がる不安(32.3%)や新たな出会いが減る不安(23.1%)、少子化進行への懸念(41.4%)は増した状況が継続
- ✓ 物価高を実感した理由は生活必需品の値上がり(食料品 89.3%、日用品 69.6%)のほか、物価高関連の報道(60.3%)や価格据え置きで内容量を減らす「実質値上げ」(52.4%)の影響も
- ✓ 物価高を実感してとった行動は不要品を買わないこと(66.9%)、ポイントやクーポンの活用(45.5%)、食料品などの生活必需品の低価格製品への乗り換え(33.1%)など

調査結果の概要は[こちら](#)から

この件に関するお問い合わせ
ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」担当 久我・井上
pr_corona@nii-research.co.jp
Tel.03-3512-1800
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | www.nii-research.co.jp



RESEARCH

株式会社ニッセイ基礎研究所 102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 | Tel.03-3512-1800 [代表] | Fax.03-5211-1058 | www.nii-research.co.jp